



校長室だより

2学期がはじまりました

長い夏休みが終わり、今日から1学期が始まります。1学期終わりの終業式では「挑戦しよう」と子どもたちに投げかけました。自分があまりしたことがないこと、初めて取り組むことに挑戦してほしいと話しました。各担任は子どもたちの夏休みの出来事や思い出をたくさん知りたいと思っています。お家でも「先生に自分の思いを伝えよう」と背中を押していただけるとありがたいです。自分の気持ちを表現できる子どもは学校で目指す子ども像の一つの柱です。

「反対」のことを大切にほしい

多くの児童が遅刻せずに登校することができ、始業式に参加することができました。校長からの話で「反対のことを大切にしてほしい」という内容を伝えました。2学期が始まると「いやだな～」と感じる子どもが多くいます。めんどうだったり、しんどかったりするのでしょう。その反対には「早く学校に来たかった」と感じている子どももいます。その反対の人は「なんでそう思うのかな？」と考えてほしいと思っています。そのことで自分とは違った思いや願いがあるということを学ぶことができます。目指す子ども像の一つである「人のためになる行動をしよう」につながる考えです。

夏休みには8月6日、8月9日、8月15日と戦争について考える日がありました。平和を守るために日本はどうしていったらよいか？を考えると、自分とは違う考え方に会えるときがあります。そんなときに反対の意見をしっかり聴き、理解し、議論できるようになると良いと思います。友達とケンカをしたり、トラブルになったりしたときに意見が食い違う場合にどう意見を聞きあうかを大切にしていきたいです。多様性を包摂できる子どもに育てたいと思います。

「わからない」を大切にかしこくなる

子どもたちは宿題や練習問題をするとときに「わかる」問題を意欲的に行う傾向にあります。問題を間違えることがゆるせない、イヤだと感じる子どもも多くいます。自信を持って取り組むことができるからだろうと思いますが、「わからない」問題こそしっかり取り組んでほしいと思っています。「わからない」問題に出会った時に、「なぜわからないのだろう」「どうしたら問題が解けるのか」と考えることが大切にするということです。本来、学びとはわからないことがわかるようになったり、わからなかった知識をわかったりすることが本質です。またわからないことがあったときに、近くの友達、先生、親、祖父母などに「教えて」と助けを求めることが学びの第一歩になります。

これからの学校教育では「自ら学びを進めていく力」をもった子どもを育てていくことが求められています。先生にただ教えてもらうだけではなく、子どもが自ら学んでいくことも必要だと言われています。自分から「教えてもらう」ために声をかける姿も主体性の表れです。主体的に学ぶ姿をさまざまな場面で見ることができたらいいなと思っています。